

令和7年2月3日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立勝川小学校
校長 村上 洋

事業テーマ	学んだ知識・技能（学習）をはたらかせて、すすんで思考・判断・表現（活用）しようとする勝川っ子の育成	
取組の目的	知識・技能の習得をするためのより良い方法、知識・技能を働かせて活用するより良い方法を、「授業づくり」・「ICT活用」の観点で検証し、改善しながら取り組んでいく。また、研究を通して、育てたい子どもたちの資質・能力の育成につなげていきたい。	
区分 (○印を付ける)	新規事業・ <u>継続事業</u> (総事業年数4年間、4年目)	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	<p>深い学びを実現するために、『課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現』を意識した授業過程を計画し、児童が主体的な態度で取り組めるような手立てを検討・実践していく。また、他校の取り組みを積極的に情報収集し、取り入れながら進めていく。</p> <p>事業テーマに則して、本校の特色ある取り組みであるEGT（イングリッシュ・ゲスト・ティーチャー）を活用した、低学年からの英語指導の授業の充実を図りたい。</p>	
事業名	事業内容	実施時期
現職教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・公開校内授業研究会（外部講師招聘） ・現職教育 ・先進校研修視察 	年間3回 (各学期1回) 通年 1・2学期
英語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・EGTとの英語活動 ・ALTによる、現職教育 	通年 8月
取組の成果 【現職教育の推進】 今年度も、これまで取り組んできた探究のサイクルを意識した授業過程や、身に付けさせたい情報活用能力の明確化に加え、児童が見方・考え方を働かせることができるような授業づくりをめざして取組を進めた。日常的に学年間や学年を越えて情報共有をしながら進め、3回の校内研では様々な視点から授業を検証することができた。特に、外部講師の講話において、成果や課題となる部分の理解が深まり、教職員の授		

業実践の変化につながった。児童が見通しをもって学習するための提示方法の工夫、学習の目的や目標の理解を深めるためのパフォーマンス課題・ルーブリックの設定、粘り強く・自己調整しながら取り組むための自由進度学習の実施などに加え、見方・考え方を働かせるための授業実践に取り組むことができた。学び方・学ぶ内容を児童に選択させる場面を設定し、児童自身で学びを進めていく授業スタイルに取り組む職員が増えた。職員の振り返りからは、日常的に授業改善に取り組むことができたという回答が多く見られ、年間を通して職員自身の意欲の向上・主体的な取組につながった。

【英語教育の推進】

継続的に低学年から英語に親しむ場を設定することで、3年生の外国語活動にスムーズに接続できた。

課題

【現職教育の推進】

学び方・学ぶ内容を児童に選択させる場面を設定し、児童自身で学びを進めていく授業スタイルに取り組む職員が増えた一方で、学校全体で系統的に取り組むことについての議論はさらに必要である。児童の発達段階や教科の特性に合わせて、系統的に取り組むことができそうな内容を整理し、児童がより「見方・考え方」を働かせながら主体的に活動できる手立てを検証していきたい。

【英語教育の推進】

一定の効果が得られた一方で、ALTや外国語の教科指導の配置が充実してきたため、EGTとしての必要性は低くなってきている。そのため、本事業における、英語教育の推進については本年度で終了とする。